

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

| | |
|-----|-------------|
| 学校名 | 佐賀県立武雄青陵中学校 |
|-----|-------------|

| | |
|------------------|--|
| 1 前年度 評価結果の概要 | 令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、学校運営に様々な制約があった1年であった。体育大会等の大きな行事を年度の後半に計画したが、新型コロナウイルス感染症が収まらず、合唱コンクールなどいくつかの行事を中止せざるを得なかった。そうした中でも、体育大会や文化発表会、修学旅行については、時期を変更したり内容を縮小したりしたものの生徒と教職員がともにアイデアを出し合い無事開催することができた。また、新型コロナウイルスの感染対策についても学校を挙げて取り組み、学校閉鎖や学級閉鎖をせずに年度を終えることができた。令和4年度も様々な制約の中での教育活動になると考えられるが、これまでの経験から学んだことを踏まえながら、高い志を持って挑戦していきたい。 |
|------------------|--|

| | |
|----------|---|
| 2 学校教育目標 | 高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。 |
|----------|---|

| | |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | (1) 中高一貫教育の充実・発展 (2) 「高い志」の育成と知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成 (3) 生徒指導の充実 (4) 新学習指導要領への対応 (5) 保護者・地域社会から信頼される学校づくり (6) 教職員の「働き方改革」の推進 |
|------------|--|

| | | |
|---------------|------|--------|
| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|---------------|------|--------|

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|--------------------|---|---|--|-------------|---|--|--|---------|---|-----------------|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | | | | ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 ○「基礎学力」の定着とともに「学び方の基礎基本」を身に付けさせる。 ○生徒が自ら考え、主体的な学習ができるようになる。 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○学校評価アンケートにおいて、「授業内容がわかる」と回答した生徒が85%以上 ○学校評価アンケートにおいて、「授業が楽しい」と回答した生徒が85%以上 | ・教職員間でマイプランを共有するとともに、年に2回、校内研修等により取り組みの促進を図る。 ・個別学習、グループワーク、アクティブラーニング等を通して、多様な生徒の能力を引き出すよう、授業改善を行う。 ・授業評価アンケートを活用し、授業に生かす。 | A | ・各教科において学力向上対策についての検討を行い、それを全職員で共有することができた。 | |
| ●心の教育 | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ○学校評価アンケートにおいて、いじめ事案への組織的対応ができていないと回答する職員が100% ○いじめ事案の情報共有等の生徒指導部会を原則毎週開催する。 | ・「ふれあい道徳」を通じて生徒・保護者の人権意識を高めるとともに、教職員の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・いじめ事案の対応についての研修・会議を年3回以上開き情報共有をする。 ・学校生活アンケートを年6回以上行い、早期発見に努める。 | A | ・各学年で道徳の授業づくりに意欲的に取り組み、学びの内容を保護者に共有することで、双方の人権意識を高めることができた。 ・今年度は「生徒指導だより(こころ)」を生徒会の生活委員会と共同で発行し、心の教育に努めた。 ・いじめについては、学校生活アンケートをこれまでに3回実施し、早期発見に努めるとともに(1学期末で25件)、職員の組織的対応により、速やかに覚知・認知に努めている。 | A | ・学校評価アンケートで、「授業受けるのが楽しい」と回答した生徒が85.8%だった。また、「授業がわかりやすい」と回答した生徒が94.2%だった。 ・学校生活アンケートで、道徳の授業について肯定的な意見が87.2%であった。 ・「ふれあい道徳」や「学級通信」をととして道徳教育について保護者と共有することができた。 | A | ・道徳の授業をはじめ、全教育活動を通して心の教育を行っている姿がすばらしいと思います。 | 総務 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○安全に関する資質・能力の育成 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○生徒の防災意識を高めるとともに、自然災害に対する具体的な備えを行う。 | ・中高交流の体験学習や、教科横断的な授業を通じて、目標設定の助けをする。 ・さまざまな講演等を通じて、ハイレベルな学問にふれる機会をつくる。 ・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・食育だよりの発行により啓発を図る。 | B | ・SDノートの活用や教育相談等をおして生徒の生活習慣の実態について把握し、3点固定の定着に向けて指導できている。 ・毎月、定期的に「食育だより」を発行し、食の大切さや健康についての意識を高めることができた。 | A | ・講演会や探究活動をおして、生徒の進路意識を高めることができた。 ・中高交流学習の実施をおして、生徒が具体的な進路目標をもつきっかけをつくることができた。 ・学校評価アンケートで、「自分の将来について考えることができた」と回答した生徒が88.4%であった。 ・「健康のため、食事が大切である」という問いに対し、肯定的に回答した生徒が、94.7%となり、目標に掲げた90%を上回ることができた。 ・毎月「食育だより」を発行したことで、食の大切さや健康と食の結びつきを再確認させることができた。 | A | ・アンケート結果からもわかるように、いじめ問題に真摯に取り組んでいる学校の姿勢が理解できました。 | 総務 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○保護者・地域との連携強化 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○ICTの活用による業務改善 ○開かれた学校づくり | ・PTAと連携をとりながら、生徒、教職員分の備蓄食糧の整備、宿泊に備えての毛布、マット等の準備をする。 ・毎月安全点検を行う。 ・学校周辺の危険箇所の把握と情報を共有する。 ・定時退勤日の設定で、職員に勤務時間短縮の意識向上を促す。 ・部活動休業日を設定し、遵守する。 ・メール配信機能の充実による保護者との連携の強化を図る。 ・学校ホームページの活用等による情報提供を行い、広報活動を充実したものにす。 | A | ・PTAの協力を得て、非常食、備蓄水、防寒着を準備できた。 ・各担当による担当箇所の安全点検項目を改訂し、を毎月確実に実施できている。 ・昨年より職員の時間外勤務時間数が短縮できている。 ・部活動休業日はどの部も確保できている。 ・Microsoft Formsを活用し、学校説明会の参加受付を行い、その集計も行った。また、参加者アンケートもFormsで行い素早い集計ができた。 | A | ・改訂した安全点検項目に基づき、各担当が毎月安全点検を確実に実施できた。気になる箇所については細かなことでも報告する手立てが確立したことで、危険を未然に防ぐ体制をつくることができた。 ・学校評価アンケートで、「防災意識が高まった」と回答した生徒が91.3%であった。 ・時間外勤務を月平均30分以上削減することができた。 ・時間外勤務80時間以上は0人であった。 ・部活動休業日については、すべての部で月10回以上の休業日をもうけることができた。 ・学校ホームページを定期的に更新し、情報公開を行った。また、学校からの緊急連絡や部活動連絡をメッセージ(メール機能)で直接保護者に送信し、正確に連絡事項を伝えた。学校評価アンケートで、「学校は情報発信を積極的にしている」と回答した保護者が91.2%であった。 | A | ・災害が多い武雄市において、防災意識を高める取り組みは評価できると思う。 | 教務(PTA) 保健相談 |
| | | | | A | | A | | A | ・職員が健康であってこそ生徒の健全な人格形成が行われるため、時間外勤務に対する職員の意識改革が進んでいるのは良いことです。 ・コロナ禍の中でも、情報発信がよくできていると思います。 | 教頭 教頭・教務 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|----------------------|------------------|---|--|--------------|---|----------------------------|---|---------|---|-------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| | | | | ○新学習指導要領への対応 | ○新学習指導要領の研究 | ○全教職員が新学習指導要領の内容を理解し、把握する。 | ・中高連携の実践の中で、新学習指導要領での6年間の指導計画を実践する。 ・全教職員が年2回以上公開授業を行う。 | B | ・各教科において、新学習指導要領を研究し、補充教材等を使用し対応している。 ・全教職員が公開授業を実施し、新学習指導要領の研究の一助としている。 | |
| ○生徒が行きたいと思う学校づくり | ○魅力ある学校行事等の企画・実践 | ○学校評価アンケートにおいて、「充実した学校生活が送れた」と答える生徒が80%以上 | ・職員間の情報共有、共通理解を確実に進行。 ・感染症対策を施し、生徒の仲間作りの一助となる学校行事を工夫しながら実施する。 | A | ・開校記念遠足や体育大会を実施し、満足のいく運営ができた。生徒の評価も上々であった。 ・学校説明会を実施し、本校の魅力を伝えることができた。 | A | ・ほとんどの学校行事を予定通り行うことができた。生徒に役割を与え、充実した行事運営ができた。生徒も保護者も満足した様子だった。 ・学校評価アンケートで、「充実した学校生活を送っている」と回答した生徒が92.4%であった。 | A | ・アンケート結果からもわかるように、職員同士が連携・協働しながら学校行事を工夫している様子が窺える。 | 教務 |
| ○学校内規の改訂 | ○学校内規を改訂する。 | ○年度内に学校内規を改訂し、実態と合ったものにする。 | ・各業務分掌主任に、学校内規改訂の担当を割り当て、定期的に進捗状況を報告する。 ・学校内規改訂案を管理職に提出し、承認を得る。 | B | ・旧内規をもとに必要な情報を取捨選択し、具体的な内容を少しずつ検討している。 | A | ・学校内規をシンプルでわかりやすいものに整理し、持続可能な学校内規集を作成した。 | A | ・組織的に取り組んでいる様子が窺える。 | 教務 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------|---|
| 5 総合評価・次年度への展望 | ・学力向上において、武雄高校進学後の更なる伸長を期待するなら、中高一貫教育の特性を活かしながら、学力推移調査において、国・数・英総合でGTZをA3以上にすることが必要である。 ・中学3年次において、学習形態の工夫及び学習集団編成の工夫を行いながら、基礎・基本的な内容から発展的な内容まで学習できるような環境づくりが必要である。 ・学習指導要領で求められている資質・能力を育むために、さらに地域の教育資源の活用を図る必要がある。 |
|----------------|---|